

薬剤総合調整加算への対応と実績に関する研究

1. 研究の対象

美原病院に入院している患者

2. 研究目的・方法

高齢者に対する多剤併用は、有害事象の発現、飲み忘れや飲み間違いの発生増加、また、薬剤費の増大へつながり、この問題への対応が求められている。平成 28 年度診療報酬改定においても入院患者の薬剤数の減少を評価する薬剤総合評価調整加算が新設された。そこで減薬に向けた以下の取り組みを行い、それによる算定数の変化について調査を行う。

- ・平成 28 年 4 月より入院患者の薬歴から多剤併用患者(6 剤以上)を把握し、当該患者の電子カルテ上に記載した。
- ・平成 28 年 12 月から主治医へ個別に情報提供を行った。
- ・多剤併用患者の状況を薬事委員会で報告した。
- ・DST 回診において「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015」を用いた処方提案を行った。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、処方薬剤数、病歴、等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者：

美原記念病院 薬剤部 関口浩之